

3. 「健康で安心、気持ちよく暮らせるまち」を実現するために

健康で安心、気持ちよく暮らせるまち

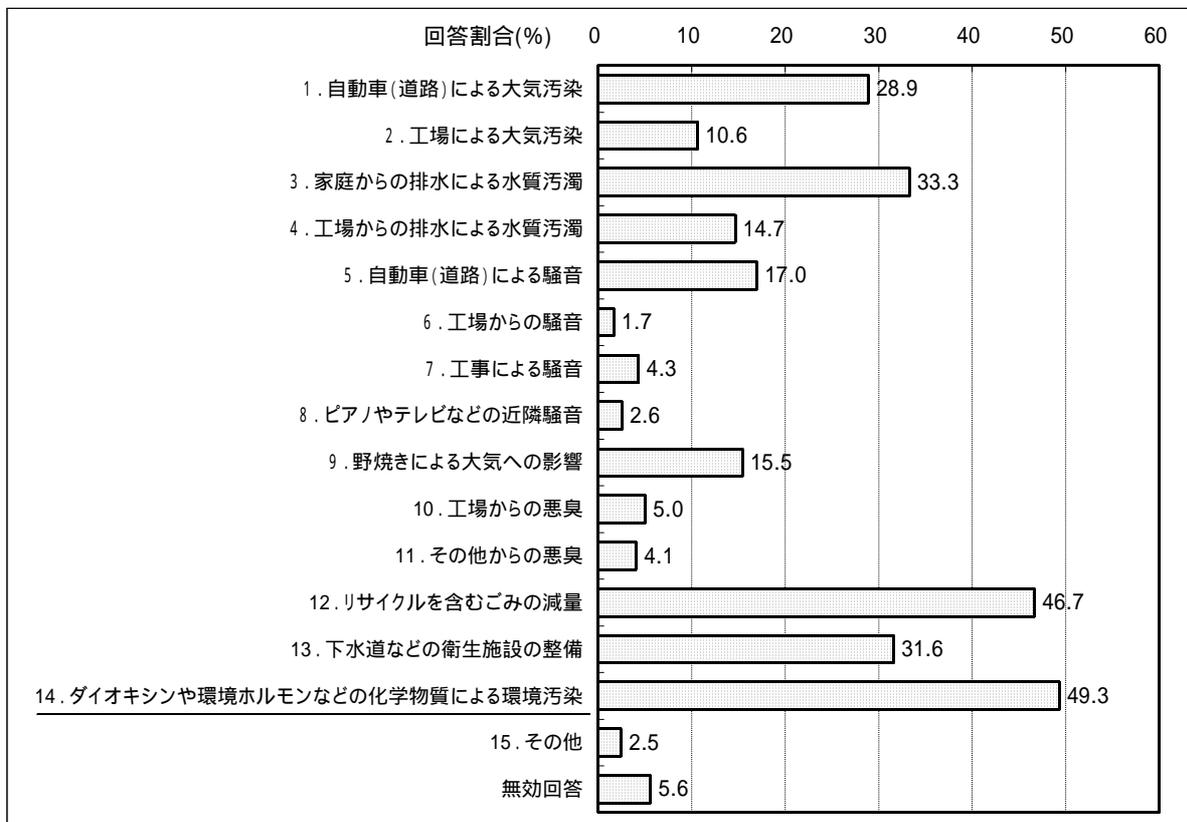
有害な化学物質による影響のないまちづくり

現在、私たちの身近で使用されている多種多様な化学物質のなかには、その有害性が指摘されているものがあります。このような化学物質のなかには、人体への影響との因果関係や影響の程度が明確でない物質も少なくありません。

今後、行政が力を入れていくべき環境・公害対策として、「ダイオキシンや環境ホルモン等の化学物質による環境汚染対策」をあげる人が最も多くなっており、有害性が懸念される化学物質による環境汚染によって生じるリスクを適切に評価し、合理的に削減する取り組みが求められています。

また、町内には大学や民間の研究施設が多くあり、さまざまな化学物質が使用されていると考えられますが、その管理や処理等について、正確な情報が不足しています。

このような現状を踏まえ、健康で安心して気持ちよく暮らせるまちの実現のため、事業者が化学物質を適正に管理し、住民も身の回りに使われている化学物質についての正しい知識をもった、「有害な化学物質による影響のないまちづくり」を進めます。



今後行政が力を入れるべき環境・公害対策（複数回答）

[資料：1999(H11)年住民アンケート]

健康で安心、気持ちよく暮らせるまち

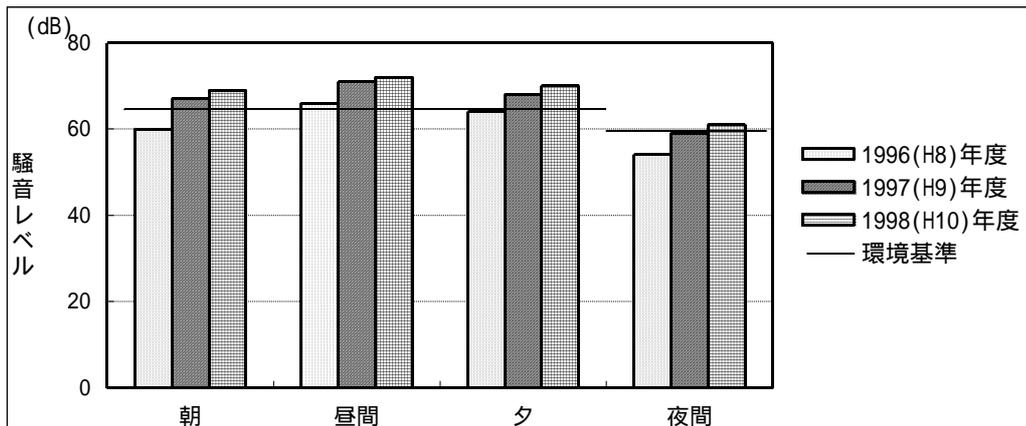
静かなまちづくり

健康で安心して毎日の生活を送るためには、静かな環境は欠かすことのできない重要な要素であり、将来の望ましい環境の理想像として「静かさ」を求める声が多くなっています。

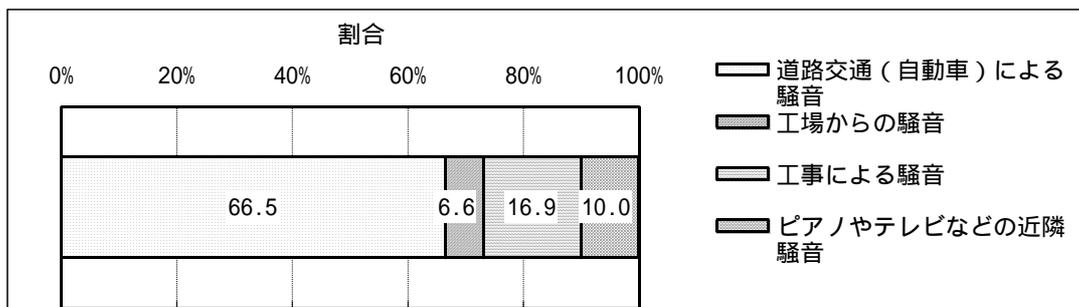
しかし、現状は主要地方道力石名古屋線や一般県道田叻名古屋線等の幹線道路沿いでは、騒音レベルが環境基準を超えており、主要地方道力石名古屋線沿道では道路交通騒音が年々大きくなっています。住民からは行政が行うべき騒音対策として、道路交通騒音対策が求められています。

また、深夜飲食店や住工混在地区における工場から発生する騒音、暴走バイクや自動車による騒音への苦情が発生しています。

このような現状を踏まえ、健康で安心して気持ちよく暮らせるまちの実現のため、道路交通騒音や工場騒音による騒音被害のない、「静かなまちづくり」を進めます。



主要地方道力石名古屋線沿道の騒音測定結果の推移
[資料：愛知県環境白書]



行政が力を入れるべき騒音対策
[資料：1999(H11)年住民アンケート]

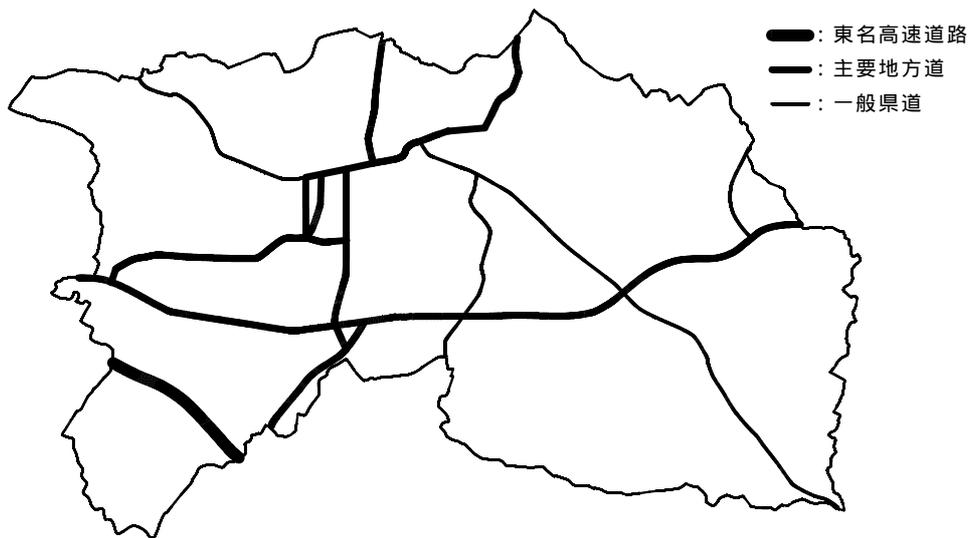
健康で安心、気持ちよく暮らせるまち

空気がおいしいまちづくり

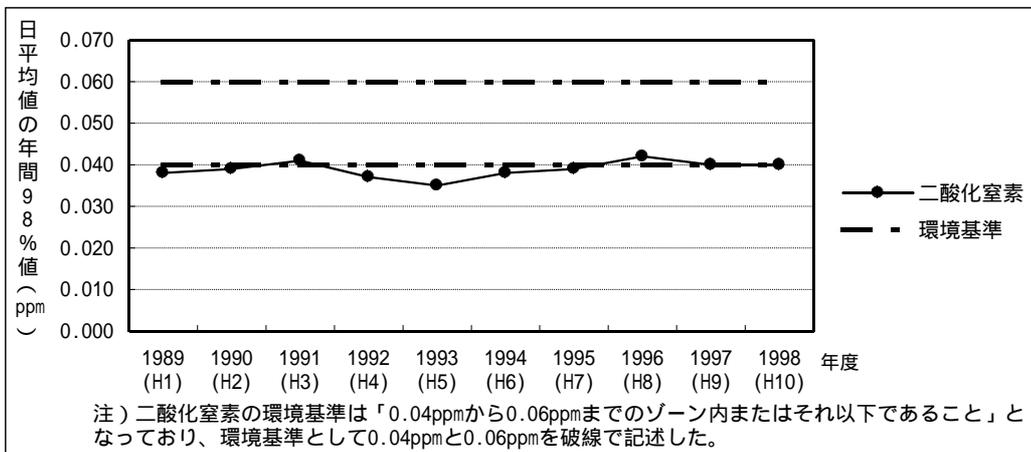
本町には、大気を汚染するような工場こそないものの、幹線道路では交通が集中し、慢性的に渋滞が発生しており、沿道の大気環境が悪化していると考えられます。また、長久手中学校で愛知県が行った調査によると、1999(H11)年度には光化学オキシダントが環境基準を超えており、二酸化窒素濃度は年々高くなる傾向を示しています。

一方、住民が考える望ましい環境において、「空気のさわやかさ」は、1999(H11)年に実施した住民アンケートによると「ダイオキシンや環境ホルモン等の化学物質による環境汚染対策」に次いで重要であると考えられています。

このような現状を踏まえ、健康で安心して気持ちよく暮らせるまちの実現のため、自動車排ガスを減らし、空気がきれいでごみの野焼きや悪臭のない、「空気がおいしいまちづくり」を進めます



主要道路



長久手中学校における二酸化窒素濃度の推移

[資料：愛知県環境白書]

健康で安心、気持ちよく暮らせるまち

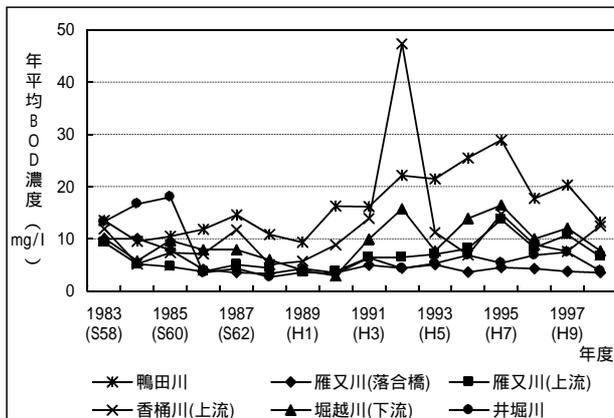
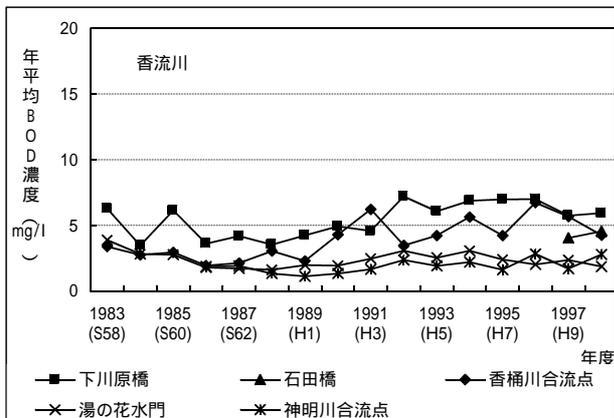
水をよごさないまちづくり

昭和30年代には、香流川にはドンコやアカザ等の比較的水質の良好な河川で見られる魚類が生息しており、水がきれいであったことがうかがえます。しかし、昭和40年代以降の人口の増加にともない、生活排水により香流川や支流の水質は悪化し、現在では、鴨田川のように夏になると悪臭を発生する河川も見られるようになりました。

このような状況のなか、今後行政が力を入れるべき環境施策として、1999(H11)年に実施した住民アンケートによると「河川やため池の水のきれいさの確保」を求める意見が多くなっています。

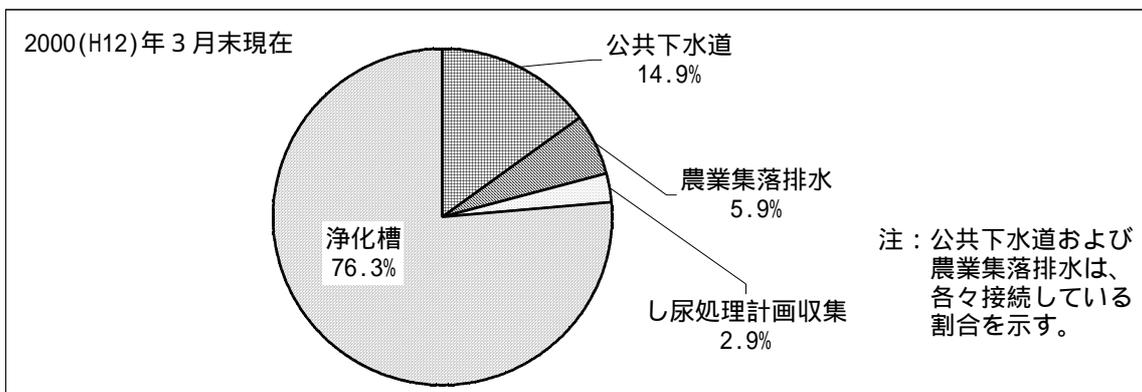
一方、公共下水道および農業集落排水施設（以下「下水道等」という。）の普及率は2000(H12)年3月末現在で34%程度にすぎず、下水道等が整備されている地区における各家庭の下水道等への接続率も62%と低くなっています。また、下水道等が普及していない地域においては、浄化槽の管理不良による悪臭等の苦情が発生しています。

このような現状を踏まえ、健康で安心して気持ちよく暮らせるまちの実現のため、住民による自主的取り組みを含め、「水をよごさないまちづくり」を進めます。



河川水質の推移

[資料：環境課資料]



生活排水の処理状況

[資料：下水道課資料]

健康で安心、気持ちよく暮らせるまち

生活マナーのよいまちづくり

市街化区域には、耕作されなくなった農地等が空き地として残っています。このような空き地のなかには、雑草が生い茂り、害虫の発生やごみのポイ捨ての場となったり、見通しの悪さによる交通事故発生等が懸念される場所があります。

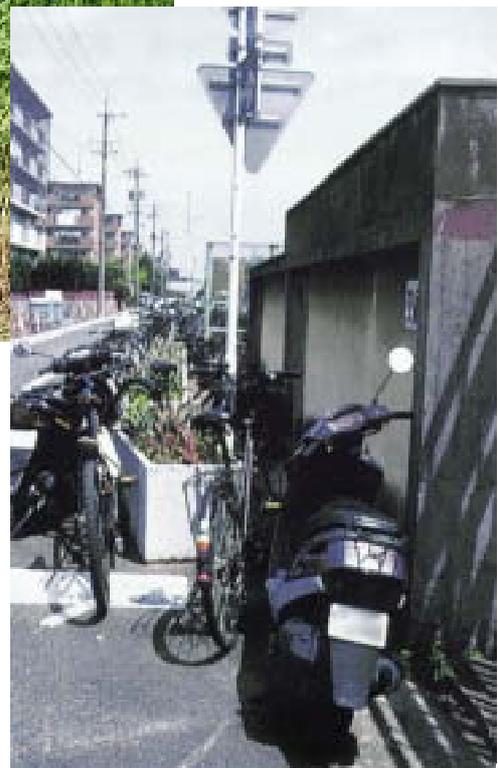
環境に関する苦情の約半数は、このような空き地の雑草に関する苦情となっており、土地所有者による草刈り等の管理が求められています。

このほかにも、ごみのポイ捨て、ペット等によるフン害、放置自転車等、私たち一人ひとりのマナーの向上により解決できる問題がたくさんあります。

そこで、健康で安心して気持ちよく暮らせるまちの実現のため、住民のマナー向上による、「生活マナーのよいまちづくり」を進めます。



空き地の雑草の状況



放置自転車の状況